

没後60年

北大路魯山人

古典復興 現代陶芸をひらく

Kitaoji Rosanjin—The Renaissance of Japanese Ceramics: The Path to Contemporary Art

会期 2019年7月2日(火) — 8月25日(日)

開館時間 10:00—18:00(金・土曜日は20:00まで) ※ 入場受付は閉館の30分前まで

休館日 8月5日(月) 観覧料 一般 1200円(960円) 大学生 700円(560円) 小・中学生、高校生無料

☆ごひいき割引…本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料2割引

※障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(5月26日まで)、ローソンチケット(Lコード:33202)、セブンイレブン(セブンチケット)、

千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて7月1日まで販売(7月2日以降は当日券販売)

主催 = 千葉市美術館 / 東京新聞 特別協力 = 世田谷美術館 / 八勝館

展覧会概要

これが、魯山人。これぞ、魯山人

京都に生まれた北大路魯山人(1883-1959)は、はじめ書や篆刻の分野で活動していました。1915(大正4)年に初めて作陶を体験し、30代終わりの22年、生来の食に対する関心から「料理の着物」としてのやきものの制作に向かいます。それは単なる食器づくりではありませんでした。彼は中世以来日本文化の核となっていた茶道を基軸とするわが国の伝統に触れ、一挙に陶芸の古典復興を代表する存在となりました。その活動はまさに「『美』を食す人」と形容できるものです。かつて中国大陸や朝鮮半島からもたらされ日本人によって守り伝えられたやきもの、日本で生み出された素朴なやきものからあざやかな色絵まで、長い年月をかけてこの国に積み重ねられたやきものさまざまな美をすくい上げた魯山人の制作はともすれば生前から好悪さまざまな評価にさらされましたが、絶えず同時代の陶芸家たちを触発しました。彼が生涯にわたって世に送り出したやきものは膨大な点数にのぼります。

本展覧会では北大路魯山人ゆかりの名料亭として知られる八勝館が所蔵する作品と世田谷美術館の塩田コレクションを中心に、川喜田半泥子(1878-1963)、石黒宗麿(1893-1968)、荒川豊蔵(1894-1985)から八木一夫(1918-1979)にいたる同時代の陶芸家たちの作品に加え、彼らが学んだ中国大陸、朝鮮半島そして日本の古陶磁もあわせて展示し、昭和陶芸の豊かな成果とその源流から未来を見つめます。

※会期中一部展示替えを行います

北大路魯山人 上賀茂神社にて
(撮影:イサム・ノグチ)



■ 北大路魯山人略年譜

- 1883年 北大路魯山人、京都市に生まれる。(本名:房次郎)
- 1915年(32歳) 九谷焼の名工・初代須田善花より作陶の手ほどきを受ける。
- 1919年(36歳) 「大雅堂藝術店」(のちに大雅堂美術店と改称)を開く。
- 1921年(38歳) 「大雅堂美術店」2階にて会員制「美食倶楽部」発足
- 1925年(42歳) 「星岡茶寮」の経営を引き継ぐ。
- 1927年(44歳) 北鎌倉・山崎に築窯。
- 1936年(53歳) 「星岡茶寮」を解雇される。
- 1959年 肝硬変により死去。(享年76歳)

みどころ

☆ 伝説の芸術者、魯山人の作品約 120 点を一挙展示

今もなお名料亭として語り継がれる「星岡茶寮」を舞台に活躍し、茶寮を退いた後は作陶を中心に自らの美学を貫いた北大路魯山人。傍若無人で真つ向からものを言う魯山人は、生前から毀誉褒貶さまざまな評価がありました。今日ではテレビや漫画のモデルとなり神話化が進んでいます。没後60年のいま、その約120点の作品を通して、魯山人とは何者だったのかを知る機会となるでしょう。

☆ 魯山人の作陶を考えるための名品の数々

大正から昭和にかけて、桃山陶芸だけでなく、中国大陸や朝鮮半島のやきものが陶芸家たちにより再発見され、古典復興という大きなうねりとなりました。温故知新を体現するこの日本陶芸の動きを、魯山人をはじめ、桃山古陶磁への注目を集めるきっかけとなった陶片を発見した荒川豊蔵や、魯山人と同様に多方面で才能を発揮した川喜田半泥子、石黒宗麿といった同時代の陶芸家たちの作品と、古陶磁の名品の総点数202点によって多角的に紹介します。

出品作家一覧

北大路魯山人、川喜田半泥子、石黒宗麿、荒川豊蔵、金重陶陽、加藤陶九郎、加藤土師萌、イサム・ノグチ、八木一夫、樂家初代長次郎、尾形乾山、仁阿弥道八、サム・フランシス

記者レクチャー

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーを行います。展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

7月2日(火)／14:00より(1時間30分程度)／10階会議室にて

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

また、展覧会の開催に伴いオープニングレセプションを行います。ぜひご参加ください。

7月2日(火)／16:00より／11階講堂にて

展覧会関連イベント

■講演会

「私と古陶磁」(事前申込制)

講師：十四代今泉今右衛門(陶芸作家、重要無形文化財「色絵磁器」保持者)
7月21日(日) 14:00～(13:30 開場予定) /11 階講堂にて
定員150名／聴講無料

[申込方法]

往復はがきまたは当館ホームページからお申し込みください。
往復はがきの場合は、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館イベント係まで。
※申込締切7月10日(水)、必着応募多数の場合は抽選

■講演会

「近代のアウトサイダーたち―川喜田半泥子、北大路魯山人、青山二郎」

講師：森孝一(美術評論家)
8月3日(土) 14:00～(13:30 開場予定) /11 階講堂にて
先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)／聴講無料

市民美術講座

『『十三松堂日記』を読む―昭和史のなかの星岡茶寮』

講師：藁科英也(当館上席学芸員)
7月27日(土) 14:00～(13:30 開場予定) /11 階講堂にて

「北大路魯山人と古典復興」

講師：藁科英也(当館上席学芸員)
8月10日(土) 14:00～(13:30 開場予定) /11 階講堂にて

いずれも先着150名／聴講無料

■ワークショップ

「魯山人にならう～金継ぎでアクセサリーづくり～」(事前申込制)

講師：柳澤綾佳(グラフィックデザイナー)
8月4日(日) 13:30より /11 階講堂にて
定員20名(対象：中学生以上)／参加費1000円(材料代込み)

[申込方法]

往復はがきまたは当館ホームページからお申し込みください。往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号(当日連絡可能なもの)・参加人数(2名まで)・氏名と年齢(参加者全員分)を明記の上、〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館イベント係まで。
※申込締切7月24日(水)、必着応募多数の場合は抽選

■ギャラリートーク

担当学芸員による7月3日(水) 14:00～
ボランティアスタッフによる会期中の毎週水曜日(7月3日を除く)
※水曜日以外の平日の14:00などにも開催することがあります。混雑時には中止する場合があります。

◆各イベントの変更、中止につきましてはホームページをご確認ください。

同時開催

所蔵作品展「やっぱり素敵なお人だった―勅使河原蒼風、棟方志功の作品を中心に―」

「没後60年 北大路魯山人」展開催にあわせ、所蔵作品の中から魯山人と交流のあった勅使河原蒼風と棟方志功の作品を中心に紹介します。

※「没後60年 北大路魯山人」展をご観覧の方は無料



棟方志功《釈迦十大弟子二菩薩》(部分) 昭和14年(1939)

次回展予告

「チェコのジャポニスム(仮称)」

2019年9月7日(土)～10月20日(日)

エミール・オルリック《日本の旅人》明治34年(1901)
千葉市美術館蔵



「没後60年 北大路魯山人 古典復興—現代陶芸をひらく—」 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 北大路魯山人《染付葡萄文鉢》1941(昭和16)年
世田谷美術館(塩田コレクション)



2. 北大路魯山人《萌葱金襴手鳳凰文煎茶碗》
1939(昭和14)年 中野邸記念館



3. 北大路魯山人《色絵染付鮑形鉢》
1935-44年(昭和10年代) 世田谷美術館(塩田コレクション)



4. 北大路魯山人《織部間道文俎鉢》
1953(昭和28)年頃 八勝館蔵



5. 北大路魯山人《日月椀》
1937(昭和12)年 世田谷美術館(塩田コレクション)



6. 北大路魯山人《横行君子平向》
1957(昭和32)年頃 八勝館蔵



7. 荒川豊蔵《志野筍絵茶碗 銘「随縁」》
1961(昭和36)年 荒川豊蔵資料館蔵



8. 川喜田半泥子《粉引茶碗 銘「たつた川」》
1945-54年(昭和20年代) 石水博物館蔵

「没後60年 北大路魯山人 古典復興—現代陶芸をひらく—」

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行
FAX：043-221-2316
E-mail：isono@ccma-net.jp

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>（おおよそで結構です 例：5cm 四方、など）</small> ：

■ 画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

1. 北大路魯山人《染付葡萄文鉢》1941(昭和16)年 世田谷美術館(塩田コレクション)
2. 北大路魯山人《萌葱金襴手鳳凰文煎茶碗》1939(昭和14)年 中野邸記念館
3. 北大路魯山人《色絵染付鮑形鉢》1935-44年(昭和10年代) 世田谷美術館(塩田コレクション)
4. 北大路魯山人《織部間道文俎鉢》1953(昭和28)年頃 八勝館蔵
5. 北大路魯山人《日月椀》1937(昭和12)年 世田谷美術館(塩田コレクション)
6. 北大路魯山人《横行君子平向》1957(昭和32)年頃 八勝館蔵
7. 荒川豊蔵《志野筍絵茶碗 銘「随縁」》1961(昭和36)年 荒川豊蔵資料館蔵
8. 川喜田半泥子《粉引茶碗 銘「たつた川」》1945-54年(昭和20年代) 石水博物館蔵

■ プレゼント用招待券申込

（ご希望の場合はチェックをつけてください）

5組 10名様分 希望します。

（それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。）

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

没後
60年

北大路 魯山人

古典復興
現代陶芸をひらく

Kitaoji Rosanjin—The Renaissance of Japanese Ceramics: The Path to Contemporary Art

記者レクチャー参加申込書

- 記者レクチャー 7月2日(火) 14:00より 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会を行います。
展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

- オープニングレセプション 7月2日(火) 16:00より 11階講堂にて

参加ご希望の方はチェックボックスと下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316 または **E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail address

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉県美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <http://www.ccma-net.jp/>